

第4章

W-4.0000

特別な目的をもった礼拝の順序

W-4.1000

1. 特別な場合と再認 (recognition)

W-4.1001

特別な場合と目的のための礼拝式

会衆やその会員について、礼拝で再認するのが適当と判断される特別な場合や生活の変化が起きることがある。これらの多くは通常、主日礼拝式の特定の時点で覚える。その他の場合は主日礼拝式か、別に計画された正規の礼拝式か、これらの事柄のために特別に計画された礼拝式で祝うことが出来る。御言葉を聞き、復活された主と出会う喜びを期待して、聖礼典を祝うことの重要性を軽んずる人々については主日礼拝式のなかで特別の再認をしてはならない。(W-1. 3011)

W-4.2000

2. 歓迎と入会の礼拝式

W-4.2001

洗礼と会員になること

洗礼で人は聖霊によって封印され、教会の一員としての自覚が与えられ、主の食卓に迎えられ、キリスト者の奉仕の生活へと区別される。(W-3. 3602-3. 3608; W-3. 5504) 洗礼によるこれらの側面は、受洗者が礼拝において、主の食卓に迎え入れられ、新しい会員として確証され、委任され、受け入れられるという諸行為により、よりはっきりと示めされる。(W-6. 2001) これらは通常主日礼拝式において、御言葉への応答として執行される。(W-3. 3502)

W-4.2002

主の食卓への歓迎

主の晩餐の招きに応えるために洗礼を受けた者を育成することは、会衆全体、特に小会の訓練を受けた者の責任である。ある人が子どもとして洗礼を受けるときは、小会は、その親（複）もしくは、その子の実質的な親としての育成責任を負っている者にたいして、その子が主の晩餐に受け入れられるようにする役目を果たすように備え、支援しなければならない。(W-2. 3012) その子がこの聖礼典を受けたい意志を表明し始めるときは、小会はそのことを書き留めておき、それを再認（喜び歓迎）する機会を用意しなければならない。

W-4.2003

信仰告白と委任

教会は子どもとして洗礼を受けたものを育成し、その子らが公に自分の信仰を告白し、教会生活の責任を受け入れるようにする。彼らがその用意ができたとき、教会は彼らを試験しなければならない。

(G-10.0102b) 小会は彼らを活動会員として受け入れた後、彼らは公同の礼拝式の中で、会衆に紹介しなければならない。その式のなかで教会は彼らが洗礼を受けた者であることを確証しなければならない。彼らは洗礼の時に行った以下の誓いを再肯定しなければならない。

- a. イエス・キリストが主であり、救い主であるとの信仰を告白し、
- b. 悪を断ち、神の恵みにより頼むことを肯定し、
- c. 礼拝と教会の伝道に積極的に、責任を持って参画する意志を宣言する。(W-3.3603)

彼らは教会の伝道と統治に全面的に参画することを委任され、会衆に歓迎される。(W3-3.3502; W-3.3602-.3608; W-3.3701)

W-4.2004
その他の会員
の受け入れ

証明書による転入、あるいは、信仰の再肯定により会員として教会に受け入れる式は、人々が以前に受けた洗礼、信仰の告白、そして弟子として召されたことを想起する機会である。小会による試験と受け入れの後で、これらの新会員は公同の礼拝における正規の式で再認されなければならない。(W-3.3502) これらの人々が洗礼の際になした献身を再肯定することや、イエス・キリストが主であり救い主であるとの信仰を再度公に告白すること、さらに、礼拝と教会の伝道に積極的に責任を持って参画する意志を表明することは妥当である。(W-3.3602) 彼らは会衆の生活のなかに迎え入れられ、会員としての奉仕に委任される。

W-4.2005
全員による再
肯定

個別的教会に入会する人たちが公に信仰を告白するそれぞれの場合に、洗礼を受けた礼拝者すべてが、以前に行った献身を正式に再肯定することは妥当である。

W-4.2006
信仰復興と
新鮮な献身

信仰者のなかにおいて、特別な覚醒、再生、あるいは新鮮な献身等が起きて、これらが公に表明され、再認され、祝われる場合がある。人々はこれらの決定的な機会と聖霊の働きを教職者(複)や小会と共有して励まされることになる。礼拝式のなかで、このような献身を深める意味において人々に公表することや、教会が祈りと感謝を持ってこのことを認めることはしばしば当を得ている。(W-3.3.502; W-3.3701)

W-4.2007
歓迎と再認を演
ずる

これらすべての礼拝式において、歓迎すること、再認すること、委任すること、感謝することは言葉で表現することのほか、行動で表現される

るべきである。適切な行動は以下のような事柄を含む。

- a. キリストの平和を共有すること、
- b. 握手の手を差し出す、
- c. 油を塗ること、
- d. 抱擁すること。

そして、参加者の文化(複)に共通したその他の再認と祝いの行動。

W-4.3000

3. 弟子としての特別な行為への委任

W-4.3001
弟子として
再認するこ
と

キリスト者共同体の生活のなかで、神は、人々を、個人的な賜物を用いて、教会と世界に奉仕する弟子としての特別な行為に召される。これらの特別な行為は礼拝のなかで正式に再認されることによって強められ、確認される。

W-4.3002
弟子とし
ての種類

弟子であることは次のように言い表すことが出来る。

- a. 地域教会において教会学校教師、理事、聖歌隊員、教会組織の役員、もしくは、その他のいろいろな教会グループの助言者、補助者として仕えること。
- b. 地域教会を代表して、そのミニストリーをとおしてキリスト者共同体のなかで、あるは共同体それ自体に仕えること。
- c. より大きな教会である中会、大会、総会、エキュメニカル機関やその評議会のミニストリーに仕える人々として仕えること。
- d. 教会を越えて、苦しむ者を助けたり、和解のために働いたりする全ての人々と協力すること。 (W-7. 3000-. 4000)

W-4.3003
認めるこ
と委任す
ること

このような弟子としての行為に召される人々を主日礼拝式で再認したり委任したりすることが出来る。これらの行為は御言葉の宣教への応答(W-3. 3500)、もしくは、世界へ御言葉を携え、御言葉に従うこと(W-3. 3700)と見なされるからである。弟子としての特別な行為を再認し、委任することは、この目的のために用意された礼拝の諸式、または、そのほかの適当な礼拝式で行うのもよい。(W-3. 5100; W-3. 5300; W-3. 5600)

W-4.4000 4. 任職と就任

W-4.4001 任職と就任 任職では、教会の選挙によって執事、長老、そして御言葉と聖礼典に仕える教職者として召された者たちを、教会は祈りと按手をもってその務めに就かせる。(W-2. 1005) 就任では、教会は祈りをもって、先に執事、長老、あるいは御言葉と聖礼典に仕える教職者の職に任職された者と、または新たにその職に仕えるべく召された者を、その務めに就かせる。

W-4.4002 式の設定 任職式と就任式は主日礼拝式のなかで、御言葉の説教への応答として行われるべきである。(W-3. 3503) 任職と就任は、イエス・キリストと教会の伝道とミニストリーに焦点を合わせ、かつ御言葉の宣教を含む特別の礼拝式で行われる。

W-4.4003 式順 任職と就任の式では、議長はその場合の性格と目的を述べて、その候補者(複)に憲法に定められている問いをしなければならない。(G-17. 0207 と G-14. 0405) 一人の長老は憲法で定められた問いを会衆にしなければならない。(G-14. 0208 と G-14. 0510) 候補者(複)と会衆からの肯定的な応答に続き、任職されるものは、可能な場合は、祈りと按手のために跪かなければならない。(G-14. 0209, G-14. 0405, と G-14. 0510; W-2. 1005) 先に任職された者で就任しようとする者は、可能な場合は、祈りのために立たなければならない。祈りに続いて、議長は任職、あるいは就任を宣言しなければならない。また、任職または就任した者(複)はその務めを喜んで受けなければならない。(W-4. 2007) 新しく就任した者と会衆に短い訓示を与えるのもよい。この式の最後に新しく任職または就任された、御言葉と聖礼典に仕える教職者は短い陳述を述べてもよいが、祝福を宣言しなければならない。

W-4.5000 5. ミニストリーの移行

W-4.5001 移行に対する再認 弟子としての明確な行為に特別に委任された者、執事、長老もしくは御言葉と聖礼典に仕える教職者に任職された者、あるいは教会で奉仕をしている者のミニストリーの期間が終了したときは、会衆やそのミニストリーに共に携わった他の者はこれらの人たちの賜物と奉仕を再認する(感謝の意を表す)ことは適切である。

W-4.5002
再認の様式

この再認は主日礼拝式における御言葉への応答の一部として、(W-3.3503) あるいは世界へ御言葉を携え、御言葉に従うことの一部として、(W-3.3701) あるいは礼拝のなかで別に定められた式で取り上げることが出来る。その式にはこれらの人たちのミニストリーに対する賞賛と謝意の表明が含まれるのはよい。そして、この式にはまた、彼らがミニストリーからの移行にあたり、彼らに代わって感謝と執り成しの祈りを行うことを含めなければならない。

W-4.6000

6. 懲罰と復帰

W-4.6001
懲罰と復帰

懲罰の様式と復帰の様式はこの『教会規定』(*Book of Order*)の『訓練規定』(*Rules of Discipline*)に説明されている。(D-12.0102; D-12.0103; D-12.0104; D-12.0105; D-12.0202; D-12.0203) これらの規定を用いるに当たり、これらは 牧会的配慮の精神と適切な共同体のなかにおける礼拝の文脈で語られ、かつ、制定されていることに注意しなければならない。

W-4.7000

7. 共同体のための礼拝式の再認 (評価)

W-4.7001
礼拝式の再認

礼拝の機会の手頃な時に、その教会の個別の伝道を超えた共同体のためになされる礼拝式は、祈りと感謝をもって、キリスト者の弟子としての立場を表明するときとして再認するのは適切である。キリスト者の生活で意義ある実践、あるいは名誉や、世間から認められたその他の形式もまた信仰共同体と喜びを共にする機会である。

W-4.8000

8. 認容と和解の礼拝式

W-4.8001
破壊と完全

キリスト者は罪に満ちた世界に住む赦された罪人である。そして、この世界はキリスト者が悩む破れが関わっており、その原因は彼ら自身である。この現実の前で、完全へ向かう意義ある移動は、この破れと関係の失敗の中にある自分自身の責任を受け止め、認めることである。

- a. 友情と結婚における関係、
- b. 家庭と教会における関係、

W-4.8000: II コリ 5:18-20; ヤコ 5:16; ウェストミンスター信仰告白 6.086; 1976 告白 9.07、
9.22

- c. 職場と学校における関係、
- d. 近隣、共同体、そして世界の中での関係。

W-4.8002 これを乗り越えて、キリスト者の共同体はそれ自身が罪と、破れた
 認容と和解の 構造と、破れた関係に関わっていることを認知し、認めなければならない
 礼拝式 い。関係の失敗、関係の欠如を共に悲しむこと、そして信仰者の共同体
 のなかで相互に赦し和解することを承認し受け止めるために特別の礼拝
 式を礼拝のなかで持つ機会を作ることは当を得ている。(W-2.6001;
 W-3.3301; W-3.5400; W-6.3007-.3008; W-6.3011; W-7.4004)

W-4.8003 これらの礼拝式には以下の項目を含む。
 礼拝式の様式

- a. 神の恵みを明らかにする聖句の朗読。
- b. 告白、執り成し、願いの祈り。
- c. 赦しと罪責、恥辱からの解放の宣言。
- d. 赦しと和解の賞賛と感謝の表明。
- e. 相互の献身と和解の呈示。

W-4.9000 9. 結婚

W-4.9001 結婚はあらゆる人類家庭の幸福のために神がすべての人類に与え
 キリスト者の てくださった賜物である。結婚は女性と男性の市民としての触れ合いで
 結婚 ある。キリスト者にとって結婚は契約であって、この契約を通して男性
 と女性は、神の前で共に弟子としての生涯を生きるように召される。キ
 リスト者の結婚式では、女性と男性が互いに生涯の約束をなし、信仰の
 共同体は公の証人となり、それを承認する。

W-4.9002 a. 結婚式の準備には、教職者はその男性とその女性に以下のこと
 結婚の準備 について協議をしなければならない。

- (1) 彼等がキリスト者として担う責任の本質として少なくとも一人は信仰を告白していることを保証すること。
- (2) 国家の法的必要条件。
- (3) キリスト者の結婚の特権と責任。

W-4.9000 : 第二スイス信仰告白 : 5.245-5.251 ; ウェストミンスター信仰告白 6.131-6.139

- (4) 結婚式の本質と形式。
- (5) 彼等が問われる誓いと約束。
- (6) これらの約束と彼等が始める弟子としての生活との関係。
- (7) 信仰の源と彼等の結婚生活を助けてくれるキリスト者共同体。

この協議は初めて結婚する場合も、配偶者が死去した後の結婚も、離婚後の結婚の場合も等しく重要である。

結婚が無分別な場合

b. 二人との協議の後で、彼等の関わり方、責任、成熟度、キリスト者としての理解があまりにも不十分で、教職者はこの結婚は無分別であると確信するならば、教職者は二人を教会の配慮のもとに続けておくことを保証し、式を行うべきでない。この決定をするに当たり教職者は小会に助言を求めることが出来る。

W-4.9003
式の時と場所

キリスト者の結婚は共同体が礼拝のために集まる場所で祝うべきである。キリスト教礼拝の式としての結婚式は教職者の指導と小会の監督の下にある。(W-1. 4004- . 4006) 結婚式は通常、結婚は神の賜物であり、キリスト者の生活の表現であることに焦点を合わせた特別の礼拝式のなかでなされる。牧師は他の者を牧師の自由裁量で式の指導者として招待することが出来る。結婚式において主の晩餐を祝うためには小会の承認が必要である。また、主の食卓に招かれる者は洗礼を受けた出席者全員に広げられることに注意を払わなければならない。小会の許可を得て、主日礼拝の中で結婚式を行うことが出来る。それは御言葉の説教に対する応答としての順序の中に置くべきである。その後主の晩餐の聖礼典が続く。(W-2. 4010; W-3. 3503)

W-4.9004
式の形式と順序

式は聖句とその目的を短く述べることから始まる。男性と女性はキリスト者としての結婚に入る意志を公表し、愛と忠誠の誓いを交わさなければならない。この式には、宣言をいろいろな形で説明した適切な聖書の聖句が含まれる。二人のためと、この新しい次元における弟子としての生活に入る二人を支える共同体のため、そして、忠実に暮らすことを求めるすべての者のための祈りが捧げられる。三一の神の名により、教職者はこの女性と男性は今、結婚により結ばれたことを公に宣言する。訓示を与えることが出来る。その他の行為で、結婚のキリスト教理解を減らすことにならないなら、共同体とその良識にとって普通の事柄を行うのもよい。式は祝福で終わる。

W-4.9005 音楽と装備 結婚式に適した音楽は集中力を神へ向け、教会の信仰を表す。(W-2. 1004) 会衆は讃美歌やその他の音楽形式である賞賛と祈りに加わるのもよい。花やデコレーション、その他の装備は礼拝する場所に適していて、礼拝者の神実在の意識を高め、キリスト者の生活の誠実と質素を反映する。(W-1. 3034; W-1. 4004-4. 4005; W-5. 5005)

W-4.9006 民事婚の認知 男女一組からの申し出による、民事婚を認知し、かつ、それを信仰共同体が確認する礼拝式は妥当である。この式は、開会の辞、夫と妻による意志の公表、誓約の交換、教職者による公の宣言以外は結婚式と似ているが、このことはこの女性と男性は、国家の法律によりすでに結婚していることを反映している。

W-4.10000 10. 死去の場合の式

W-4.10001 キリスト者と死 復活はキリスト者の信仰の中心的な教理であり、それは死に対するキリスト者の態度と応答を形づくる。死はすべての者に喪失と悲しみと悲痛をもたらす。死に直面して、キリスト者は涙と喜びを伴い福音の希望を確信する。キリスト者は別離の不幸を抱かないが、しかし、聖霊の力と信仰共同体によって支えられる。教会は悲しむ者すべてに愛と希望のミニストリーを提供する。(W-6. 3006)

W-4.10002 処置の計画 感情的な抑圧の元では賢明な計画を立てるのは難しいので、小会は関係者を励まして、埋葬、式、医学のための献体等、キリスト者としての選択など、あらかじめ、死去の時に必要な処置を諮り計画を立てなければならない。これらの計画ではその処置が簡素で、復活の希望を証しするものであり、キリスト者の共同体が中心になるようにしなければならない。小会は死去の際に行う式の一般的な方針を立てる責任がある。(W-1. 4004)

W-4. 10003 式の設定 死去の際に行う式は通常、普段礼拝を行う場所であるべきである。それは、この式を共同体の持続的な生活と復活の証しに結びつけるためである。この式は牧師の指導の下で行うべきである。他のものは牧師の裁量で式の指導者として招くことが出来る。この式はいつでも執行することが出来る。この式を主日礼拝の一部として行いたいとか、この式の

W-4.10000: 第二スイス信仰告白 5.235-5.236

一部で主の晩餐を祝いたいという申し出は小会の承認が必要である。

W-4.1004
式順序

式は聖句で始まる。礼拝者は讚美歌、詩編、靈歌、あるいは靈的な歌を歌うのはよいが、これらは死に打ち勝つ神の力、永遠の命への復活を証しする信仰、そして聖徒との交わりを保証することを明確に表すものであるべきである。聖書が読まれ、説教か、御言葉の解説がなされる。人々による信仰の肯定がなされる。死去した者の信仰の諸様相を回想し、下記のような神への感謝を祈りで捧げられるべきである。

- (1) イエス・キリストにおける命と、福音の約束にたいする感謝、
- (2) 死去したものの命を賜って下さったことの感謝、
- (3) 聖霊の慰めへの感謝、
- (4) 信仰の共同体のための感謝。

執り成しをする

- (5) 悲しむ家族や愛された者のため、
- (6) 先だたれた人の世話をした人や支えた人のために、
- (7) 喪失で苦しむすべての人のために。

願いを捧げる

- 8) 同席しているすべてのものための信仰と、恵のために。

主の祈りで閉じる。

式は死去したものが永遠なる神の保護の元に委ねられることと、人々を祝福で送り出すことで終わる。

W-4.1005
別の方法と選
択

式は遺体を埋葬する先か後に行うことが出来る。式における注目を神に向けるために、棺があるときは通常それを閉めておく。棺を葬儀用のおおいで覆っておくのもよい。式には、キリスト者の死と復活の理解を損ねたり、減らしたりしない限り、会衆の信仰と文化にとって普通の行為を取り入れてもよい。式はそれ自体完結していなければならない、友愛的、市民的、軍隊的儀式はどのような場合も別個に行うべきである。通常の礼拝

をする場所で式を行わない重要な理由があるときは、家庭、葬儀場、火葬場もしくは墓所で行ってもよい。

W-4.10006
埋葬の式

死去したものの家族の構成員や友人は別れの式を行うために、墓所、もしくは火葬場に集まるべきである。この式は簡素で、品位を保ち、簡潔であるべきである。式では聖書朗読、祈り、埋葬の言葉、そして祝福を含み、死の実態を反映し、死去したものが神の保護にあることと、死からの復活の信仰を証しするものである。

第 5 章 礼拝と個人の弟子身分

W-5.0000

W-5.1000 1. 個人礼拝、弟子身分、信仰の共同体

W-5.1001
個人礼拝と
同信者礼拝
キリスト者は同信者礼拝(communal worship)や礼拝式(service)のなかでも、また、個人的な礼拝や弟子としての行為のなかでも神に応答する。キリスト者の生活は教会の礼拝から流れ出てくるのであって、そこは信徒としての主体性が強固にされるところであり、弟子としての生活と個人的な神への応答の生活に遣わされるところである。信徒の神への応答と弟子としての生活は教会の礼拝と礼拝式の生活のなかに流れ込む。(W-1.1005b; W-2.1001)

W-5.1002
礼拝と生活
礼拝を通して人々は彼等の生活のなかで神の实在に触れる。この世におけるキリスト者の生活から、礼拝の必要性が思い当たる。礼拝において、人は神の恵みのなかにあるこの世を見る。礼拝から、この世における生きる未来像と力が現れる。

W-5.1003
礼拝と
ミニストリー
礼拝において説教され受け止められた神の御言葉は、それぞれの信徒をこの世における忠実な弟子としての務めに召される。このような奉仕から弟子は感謝と、告白と、執り成しと、そして、キリストの招きを新たに聞く方向へ向きを変える。信徒の生活のリズムは礼拝からミニストリーへ、ミニストリーから礼拝へと動く。

W-5.1004
礼拝と訓練
キリスト者の生活は恵みによって力づけられ、服従において表われ、訓練で形作られる。神は恵みの手段として礼拝の要素を与えて下さり、それを教会の会衆が用いると同様に、家族も、個人も用いるようにした。(W-2.0000) 小会は人々に「この指針」に記されている訓練を用いることを奨めるべきである。これらの訓練は信徒の服従と弟子としての身分を明記すると同時に、神の恵みのうちにあって生活し成長する手段を記している。(W-5.2000-.5000)

W-5.2000 2. 日ごとの個人礼拝の訓練

W-5.2001
日ごとの個人礼拝
日ごとの個人礼拝は神に集中し神の恵みを受けるための訓練である。弟子としての日ごとの努力は礼拝による日ごとの育成を必要とする。日ごと

の個人礼拝は集った信仰共同体のなかで（W-1. 1005； W-1. 3012； W-3. 4000）、家族内や、家庭のなかで、（W-5. 7000）、あるいは、個人生活のなかで生じる。聖書、祈り、自己奉獻、礼拝への参加は日ごとの個人礼拝の要素である。洗礼と主の晩餐はその性質上、教会に属し信仰を共有すること（communal）であるが、これらの聖礼典のために備えることと想起することは日ごとの個人礼拝にとって重要である。日ごとの個人礼拝の訓練の一側面は神の實在に集中し、御言葉を聞き、祈りと自己奉獻と礼拝に参加することが出来る時と場所を見つけることである。

W-5.3000 3. 個人礼拝における聖書

W-5.3001 聖書は神の自己啓示の記録であって、聖霊はそれを通してイエス・キリストを証しし、信仰生活の権威ある方向を示す。個人礼拝では、聖霊の神が語り給うことを読み、もらさず聞きとろうとして聖書を中心に置く。（W-2.2000）

W-5.3002 a. 人は聖書を、神の御言葉が差し出す導きと、支えと、慰めと、励ましと、挑戦のために読むことはよい。

聖書の研究 b. 人は、神の御言葉をより明瞭に聞き、より忠実に従うために、聖書の文語的形態、歴史と文化的脈絡を理解しようとして聖書を研究することはよい。

黙想 c. 人は以下のことを念頭に置いて、御言葉を黙想するのはよい。

- (1) 聖句を暗記する、
- (2) 神の啓示を想起し、熟考する、
- (3) 聖書の課題、イメージ、形態を分析し比較する、
- (4) 聖書と生活との関係の接点を見つけ、それを極める、
- (5) 聖書に描かれている世界と出来事のなかに、神がなさることと約束されることに参加しようとして、創意的な思いを持って入ろうとする。
- (6) 福音の挑戦と要求に全力を尽くして格闘する。
- (7) 神への応答の生活に新たに自己を捧げる。

W-5.3003 聖句使用による助け ある人の見識や、御言葉を読んだこと、研究したこと、黙想したことの個人的な応答、あるいはそれらを他の人たちと共有したことなどを記録にとどめることは往々にして助けになる。意識、要約、小感想などを書き留めること、独創的な応答をすること、機関誌を保存することなどすべては聖書の御言葉への応答を助けるための訓練である。聖書を広く読むことは個人礼拝にとって特に重要である。聖句日課、いろいろな翻訳、小論説は神の御言葉の全体的なメッセージを聞こうとするためには有益である。(W-2. 2004)

W-5.4000 4. 個人礼拝における祈り

W-5.4001 祈り 祈りは、私たちと聖なる交わりと交流を始められた神に、自分自身を意識的に開くことである。祈りは神の實在の場において、受け止め、応答し、語り、聞き、待ち、行動をすることである。祈りにおいて、私たちは崇拜と、感謝と、告白と、願いと、執り成しと、自己献身で神に応答する。(W-2. 1000)

W-5.4002 個人礼拝における祈りはいろいろな方法で表現できる。
祈りの表現

人は自分の喜びと心配、恐れと希望、生活の必要と願望の言葉を取り入れて、神との意識的な会話に携わることが出来る。

人は注意深く、期待を持った沈黙で神を待つことが出来る。

人は神の賜物と、神の行為と、神の御言葉と、神の特性を黙想することが出来る。

人は、言葉と思いを超えて、自己の魂と神の霊との交わりへ移り、神を熟視することが出来る。

人は一人で神に近づくことが出来る。

人は個人として、また、私的な訓練として、言葉で祈ることが出来る。

人は恵みへの応答として、舞踏、体操、音楽、あるいはその他の表現活動による演じられた祈りを個人的な訓練に取り入れることが出来る。

W5-4002: 詩編 119、130 ; マタイ 6 : 6 ; ルカ 11 : 1-4 ; ロマ 8 : 26 f. ; I コリント 12-14

人は公の証しとしての祈りを、徹夜の祈りと、社会的責任、あるいは抗議の行為と、あるいは訓練された礼拝式の象徴的な行動を通して演ずることが出来る。

人は世界の日常生活における人々、事件、出来事を、神の前で、保持する訓練を引き受けることが出来る。

人は契約の祈りに加わるか、あるいは普段の共有の祈りの訓練に携わることが出来る。

キリスト者は「絶えず祈る」という継続的な祈りの生活に召されている。(ロマ 12 : 12 ; I テサ 5 : 17)

W-5.4003 個人礼拝において、祈りの訓練をするにあたり、祈りの形と内容を具
祈りの手助 体化するための手助けを以下の項目のなかで見つけることが出来る。
け

- a. 聖書では、特に主の祈りとその他の祈り、詩編とその他の聖書に出てくる歌、
- b. 讃美歌では、霊歌、その他の歌、
- c. 礼拝式次第書、祈禱書、礼拝の解説書、
- d. 文学や視覚芸術品に表現された祈りと信仰の遺産。

このような情報源から祈る機会とその課題を知ることができるのは、丁度、日ごとのニュースや教会予定の解説資料や指導書が個人礼拝のための資料であるのと同じである。

W-5.5000 5. 個人礼拝と弟子としてのその他の訓練

W-5.5001 a. 神は聖書を超えて、聖礼典と祈りという恵みの手段を与えられた。
主の日
訓練された b. キリスト者は、主のために神聖が保たれるように主の日を拝領し
習慣 た。(W-1.3011, W-3.2001) それは信徒にとって週の始まりであり、弟子としての生活の形を添える。この日の規則正しい習慣には以下のような自分自身のための準備を含む。

W-5.5001: ハイデルベルク信仰問答 4.103 ; ウェストミンスター信仰告白 6.119 ; 小教理問答 7.061 ; 大教理問答 7.227

- (1) 公同の礼拝(public worship)への参加
- (2) 証しと奉仕と憐れみのミニストリーに従事、
- (3) 霊的再生と日常の仕事からの休息に貢献する活動。

この訓練を守るに当たり、日曜日に仕事があるキリスト者は、これらを週の別の日に当てるべきである。

W-5.5002 キリスト者の年間季節は個人礼拝と訓練の内容にリズムを添える。
季節 (W-1. 3013; W-3. 2002) 特別の季節、何かの場合、自分の生活の変化などもまた、個人礼拝と訓練を知らせる。

W-5.5003 キリスト者は断食や徹夜やその他の形式による演じられた祈りによる
断食と演じられた祈りの訓練のために、特別な時や季節を守る。このような訓練はどのような時に行
られた祈りの訓練 っても適切であるが、特に、弟子としての明確な行為の準備、すなわち、懺悔、和解、平和のため、社会的な抗議、憐れみの行為を行うのは相応しい。

W-5.5004 譲与はいつもキリスト者の献身と訓練のしるしとして続いてきた。信徒
キリスト者 が物的品物、個人の能力、時間といった神からの賜物を用いる方法は、イエス・キリストにおける神ご自身の自己譲与と、世界の他の人たちと共に、あ
の譲与 るいはこれらの人たちのために仕えるようにと召されたキリストへの忠実な応答を映し出している。十分の一献金をすることは管理人(stewardship)としてのキリスト者訓練の基本を表す。(W-1. 3030; W-2. 5000)

W-5. 5005 キリスト者の管理人としての訓練に従事するものは、自分自身が質素で、
命の管理人 寛大で、正直で、親切で、憐れみ深く、感受性が高く、地球と神の被造物に関心を持つ生活に召されていることを見いだすであろう。(W-7. 5000)

W—5.6000 6. キリスト者の召命

W-5.6001 神は人を召す
神の召し

- a. イエス・キリストを主であり救い主であると信じることへ、
- b. 服従する弟子としてイエス・キリストに従うことへ、

c. 神が与えられた賜物と能力を用いて、神を崇敬し、仕えることに、

- (1) 個人生活において、
- (2) 家族と家庭において、
- (3) 日常の業務において、
- (4) 共同体、国家、世界の中において。

W-5.6002

私たちの応答

人(a person)はイエス・キリストを信ずることを求める神の召しに、洗礼と、信仰共同体における生活と礼拝を通して応答する。

人々は神がなさる弟子としての召しにたいして、世界とその中にある神の民へのミニストリーを通して応答する。

それぞれの生活の側面において、神をたたえ、神に仕えることを求める神に対して、人々は以下の場において応答する。

- a. 彼等の仕事と活動において、
- b. 彼等の思考と彼等の行動において、
- c. 彼等の私的、あるいは公の関係において。

W5.6003

礼拝と仕事

神は日々の生活を神聖なものにし、日々の生活は聖なる暮らしの機会を備える。キリスト者が日々の生活において、神をたたえ、神に仕えるとき、彼等は神を礼拝する。キリスト者にとって、仕事と礼拝は切り離すことは出来ない。

W-5.7000

7. 家庭と家族における礼拝

W-5.7001

家族の礼拝

キリスト者が家庭とか家族と一緒に暮らすときには、時々共に礼拝を守るべきである。毎日、共に礼拝を守ることが出来るときは、その家族では次のように行うとよい。

- a. 聖書と歌を伴う食卓の祈り、
- b. 朝と夕方の祈り、
- c. 聖書の朗読、研究、内省、暗記
- d. 詩編、讃美歌、霊歌、その他の歌を歌う、
- e. 譲与と分かち合いの表明。

予定が複雑になり、毎日の仕事のなかで、共通の時間をとれないときは、定まった家族礼拝の訓練を工夫することは特に大事である。家族の者が一緒に礼拝に加わることが出来ないときは、これらの人たちは、聖書朗読と関わりのあることの祈りでもって、普通の時に個人礼拝を守るのもよい。

W-5.7002 親（複）または、親の責任を負っている者（複）はその子どもたちに、家族礼拝における子どもたち

キリスト者の礼拝を実例や、家族礼拝の準備や、話し合いと指導で教えなければならない。子どもたちは以下のことを行って、家族礼拝に加わる。

- a. 祈ることと歌うこと、
- b. 聖書物語を聞くことと話すこと、
- c. 読むことと暗記すること、
- d. 指導し、分かち合うこと、
- e. 演じ、応える事。

主日礼拝でいつも行う礼拝の要素を、子どもたちに教えなければならない。
(W-2. 3012-. 3013; W-3. 1004; W-3. 3100; W-3. 5202; W-6. 2000)

W-5.7003 特別な場合と季節

家族礼拝では教会生活や家族の生活のなかで起きた特別の再認や嬉しい事を思い出すべきである。誕生日、受洗日や、そのほかの記念日はすべて、特別の行事として適切な機会である。家族礼拝にとって、主の日と洗礼と主の晩餐の聖礼典を祝うことを待ち望み、覚えることもまた大事である。キリスト者の年間季節もまた、家族礼拝に方向と内容を備えてくれる。アドベントやレントの季節、クリスマスやイースターの祝いは特に、家族礼拝に適した行事である。このように整えた礼拝は自然の季節のサイクルと共同体、国家、世界の生活のリズムを再認すると同時に、これらの出来事やその必要性は、信徒たちに彼等が世界におけるイエス・キリストの弟子として召されていることを思い出させる。(W-2. 3014; W-3. 2000; W-3. 3600)

第 6 章

W-6.0000

信仰共同体における 礼拝とミニストリー

W-6.1000 1. 教会における相互ミニストリー

W-6.1001 同信者(communal)礼拝と個人(personal)礼拝において、神は人々を信仰ミニストリーと弟子身分に召される。この召しに応える者は、彼等自身と、神が彼等に信仰共同体の生活のために用いるために与えて下さった賜物を、世界と互いの神への応答ミニストリーのために提供する。(W-1. 1000; W-5. 1000; G-3. 0300; G-4. 0200; G-4. 0400)

W-6.1002 教会における相互ミニストリーは、説教され、聴かれた御言葉からわき出て養われ、礼拝において、祝われ受け止められた聖礼典と、捧げられ共有された祈りによって養われる。

W-6.1003 育成と牧会はキリスト者が互いに仕え合う手段である。キリスト者共同体における信徒とその子たちの育成は彼等をイエス・キリストにおける十分な成熟に導く過程である。牧会とはキリスト者が、日々の生活や、個人や同信者の必要や危機が生じたときに互いに提供し合う支援である。育成には時として牧会が関わり、牧会はキリスト者の育成を促進する。

W-6.2000 2. キリスト者の育成

W-6.2001 キリスト者共同体はその会員のためにすべての生涯と生涯の移行を通して育成を提供する。教会は信仰共同体に加わった人たちに以下の育成を提供する。

- a. 洗礼の準備、
- b. 共同体の生活に入れる、
- c. 礼拝に参加し、主の食卓に与ることを歓迎する、

W-6.1003: ロマ 12 : 15 ; ガラ 6 : 2 ; エペ 4 : 12b-16; 第 2 スイス信仰告白 5. 233-5. 234 ;
ウェストミンスター信仰告白 6. 147

- d. イエス・キリストを信ずる信徒であることを表明することを助ける、
- e. 彼等が世界に遣わされる弟子として生きるように備える。
(W-2. 3012; W-2. 3013; W4. 2002; W-4. 2003)

W-6.2002 教会は世界における責任を引き受ける者に育成を提供し、以下の事柄について手助けする。

- a. 自己発見と世界意識、
- b. 自己訓練と弟子になること、
- c. 道徳的、倫理的価値のあるかかわりに成熟すること、
- d. 教育と職業に関する見識ある選択をすること、
- e. 個人的関係と結婚に賢明な関わりを持つこと。

W-6.2003 神からの召しを見つけつつあるキリスト者を教会が世話をするように、教会はキリスト者の召命を公に全うしている人々に、活発に生きる栄養を提供する。(W-5.6000) それは彼等を以下のような弟子としての生活に導き支えるのである。

- a. 信仰共同体における相互の奉仕者(minister)として、
- b. 物質資源、時間、才能の管理人として、
- c. 一家のなかの他の人と信仰を分かち合う特別の役目を負う家庭人として、
- d. 責任ある市民として、
- e. 世界のために仕える神の僕として。

W-6.2004 新しい制限や新しい自由をそなえる環境のなかで人々が弟子としての歩みを続ける時に、教会はそのような人々を導き、支えるための手助けを提供する。

W-6.2005 洗礼式において、会衆は、聖霊の力を信じ、公同の教会を代表して、キリスト者の育成の責任を誓う。(W-2. 3013; W-3. 3603) 小会と長老は教会の教育計画の進展と監督、教会役員の指導、そして、会員のなかでの弟子としての発展を図ることなどを提供する責任がある。(G-6. 0304; G-10. 0102e, f, h, j, 1) 牧師は御言葉と聖礼典のミニストリーを通し、会衆とともに祈り、あるいは会衆のための祈り、公式、あるいは非公式の教え、そして実

例をもって共同体を育成する。(G-6.0106; G-6.0202) 信仰共同体のなかで、特別な賜物を持っていて、教育に奉仕する訓練を受けたものは育成の指導者の務めに召される。小会によって任命された教師、アドバイザー、その他の者は、教育と育成の責任を負っている人たちを指導し、教授し、素養をつける。(W-3.3503) 両親あるいは親の責任を担っている者は教会の信仰を子どもたちに分ける。(W-4.3002; W-5.7000)

W-6.2006
育成の供給源
と機会

教会における育成の基本的な基準と供給源は聖書に書かれた神の御言葉である。教会の育成のための中心的行事は主の日の礼拝式である。そこでは御言葉が説教され、聖礼典が祝われる。最も高齢な者から最も若い者にいたるまでの共同体全員は、礼拝に出席し、それに参画することが奨励される。この礼拝式に正規に参加することを妨げるような教育活動を計画してはならない。(W-3.1004) キリスト者の育成のための重要で継続的な背景は家庭であって、そこでは礼拝と、教えと、実例を通して信仰を分かち合う。教会は育成のために、その他の機会を提供する。

- a. 教会学校での学習時間、
- b. 教育と育成のために組織されたその他のグループや団体、
- c. 礼拝や伝道のために集まったグループや共同団体、
- d. 委員会、評議委員会、統治機関、
- e. 修養会、キャンプ、協議会。

教会の信仰告白集には育成の手引きが掲載されている。(G-2.0000) 研究と指導のための輪郭と内容は教会の典礼、文化、そして民族的遺産の豊富な資料から入手することが出来る。キリスト者育成のために発達したいろいろな方法の教育資料は小会の承認を得て使用するのがよい。(G-10.0102f)

W-6.3000

3. 牧会

W-6.3001
教会

キリスト者共同体はその会員の個人生活や同信者の生活への牧会を提供する。教会はこの相互牧会には種々のレベルを備えるのがよい。

W-6.3002
全てのキリス
ト者による牧
会

すべてのキリスト者は、日々の生活のなかで、喜びと悲しみを分かち合い、ストレスと窮乏の時に支え、互いの赦しと和解を差し出すという互いの牧会に召されている。この牧会は基本的には信仰共同体と一緒に礼拝

することにより提供される。これはまた共同体のなかで人々が互いに関わり合うことや、育成のためとか教会のミニストリーを実行するグループに加わることによってなされる。長老、執事、牧師はこの共通の牧会のための特別な責任に召されている。(G-6.0202; G-6.0304; G-6.0402)

W-6.3003 信仰共同体のなかで特別な賜物を持っていて訓練を受けた者は、教会
教会カウンセ
セリング ングの中で、個人や、その目的のために作られたグループの世話を
する教会カ
ウンセリングという特別なミニストリーに召される。

W-6.3004 ある事情の下での牧会ミニストリーは専門の教職者とか、資格や信仰
委託 の観点から適任とするその他の人に委託して、適切なカウンセリングか治
療を受けることが出来る。

W-6.3005 教会は生活のなかで特別な貧困と危険にある人たちに牧会を提供する。
病人への牧 人々が病気の時は、キリスト者は祈りと訪問、その他の行為で応答し、病
会 にかかっている人やその家族、家庭、友人のために、愛と支援を示す。病
気が危篤であるとか、長引いているときは牧会にあたる者は、それぞれの
人たちが経験している難局と緊張に特別な注意を払う。末期的病気には特
別な配慮が必要で、それは、神を信頼することを伝え、苦しみを支え、不
安を和らげること、そして、死に直面して希望を伝達することである。

W-6.3006 死が到来するときには、教会はその牧会として、直ちに立ち会い、喪
死における 失と心痛を分かち合い、復活の力における信仰と希望、そして通常の牧会
牧会 と愛の行為のミニストリーを提供する。教会は悲嘆と調整の期間を通して
特別な牧会を続ける。(W-4.10000)

W-6.3007 生活におけるその他の喪失の場合。

喪失におけ
る牧会

- a. 体力の喪失、
- b. かつては大事であった関係の消滅、
- c. 子どもたちの家庭からの出立、
- d. 有意義な雇用、生計のもとで、あるいは財政上の安全等の喪失、
- e. 別居あるいは離婚による結婚の終結。これらには牧会が必要で、それには悲しむ機会を備え、再生と調整の過程を実質的に助け支援する。

W-6.3008
破壊した関係
における牧会

教会は牧会を備えているが、この牧会は人々を癒す。そして、家庭、家族、学校、職場、近隣、共同体、そして教会の中での関係を破壊に導く日常生活での痛み、敵意、争いに取り付かれている人たちを支えようとする。(W-4. 8000)

W-6.3009
罪と赦しにお
ける牧会

牧会における癒しの要請には、あらゆる人間の破壊の根源であるそれぞれの生活における罪の現実を認知することを伴う。信仰を持っている共同体は神のよい知らせを告知するが、その神の愛は人々に以下の恵みを与える。

- a. 彼等の罪と破壊の複雑性を告白する、
- b. 悔い改めて、悲しみと変わる意向を表明する、
- c. 神の赦しを受け入れ、その赦しを他の人に広げる、
- d. 他の人を赦し、他の人の赦しを受け入れる、
- e. 破壊のなかで和解に向かって働く、
- f. 癒しと平和をもたらす神の力に信頼する。(W-4. 8000)

告白を受け入れることと神の赦しの宣言、悔い改めを求めることと新しい生活への努力を支援すること、赦すことと赦しを受け入れることを奨めること、そして和解を成立させることは牧会の行為として適切である。

W-6.3010
生活の変遷のなか
における牧会

教会が人々の生活のなかで喜びと悲しみをもたらす変遷があることを認める。

- a. 子供は誕生し、成長し、独立し、高齢になった両親はその子どもに依存するようになることを発見する、
- b. 人々は働き始め、職を変え、引退する、
- c. 世帯が作られ、新しい土地に移動し、その家族が増え、また失われる、
- d. 人々は力づけられ、回復され、新しい献身に就く。

牧会におけるミニストリーは、上記のことやこれらの時の調整を、人々が認め、受け入れ、そして喜ぶように助け、生涯における新しい役目に励むように支援し、これらの変遷を通して彼等の独自性を明確にすることができる。

W-6.3011

礼拝と牧会の
源泉

信仰共同体は礼拝において相互牧会のミニストリーに携わる。そして、その会員は牧会を供する礼拝の源泉に頼る。

- a. 聖書は支援と慰めと指導の源泉としての中心である。説教と歌による御言葉の告知は必要なことを認識するように導き、牧会を準備する。(W-2. 2000; W-3. 3400)
- b. 祈り—無言、口で言う、歌う—では感謝をし、執り成しをし、願いをし、神の實在と力を認める。按手と油注ぎによって演じられる祈りは神に癒しと、力が授けられること、支えられることを求める。(W-2. 1000; W-3. 3506; W-3. 5400)
- c. 病院あるいは家族のところでなされる聖礼典は、聖なる場所を越えて、神の實在を祝い、信仰共同体を広げる。(W-2. 3000-. 4000; W-3. 3600)
- d. 主の祈り、詩編、頌栄、祝福、その他、会衆の礼拝で周知の部分は信仰共同体の支援と牧会を特別な必要性や環境のなかで分離されている人たちへ広げられ、その共同体における彼等の位置づけを思い出させる。
- e. 記念の時、人々の祷告、執り成しの祈り、その他の出来事で、共同礼拝が行われる事は現在いない人々を信仰共同体の中に取り入れるであろう。(W-3. 3500; W-3. 3700)

W-6.4000

礼拝とミニス
トリー

キリスト者共同体での神礼拝は、信仰育成のミニストリーと同様に牧会ミニストリーの基礎であり、また互いに関連関係にある。

第7章

W-7.0000

世界における教会の礼拝とミニストリー

W-7.1000

1. 礼拝と伝道

W-7.1001

礼拝とミニ
ストリー

教会はそのミニストリーと礼拝を通して神が世界に向かって行う伝道に参画する。礼拝は神がイエス・キリストにおいて創造の最終的な回復として約束なされた聖なる常態の実体を指し示す。御言葉の前において完結しており、しかも、祈りと聖礼典において一致している礼拝共同体は神の支配が実在している徴である。そのミニストリーに携わる教会は、福音の宣教、憐れみと和解の業、創造と命の管理を通して、神の支配を証しする。神の支配の徴は、聖霊が人々に正義を探し求めさせ、平和を創りださせる世界のいかなる場所においても明示されている。(W-3.0000)

W-7.1002

礼拝と伝道

神は礼拝する教会を、イエス・キリストが世界に仕えるためになさる伝道に召される。教会はこの伝道に参加すると同時に、世界を支配し給うイエス・キリストにおける神を礼拝することに召されている。(G-1.0200)

W-7.2000

2. 宣教と福音伝道

W-7.2001

福音伝道の範

囲

神は聖霊の力の下で教会を送り出す

- a. キリスト・イエスにおいて世界は神と和解させられたというよい知らせを知らせるために、
- b. キリストの招きを受けているすべての国民と人々に悔い改めと信仰と服従を伝えるために、
- c. イエスは人々を開放するために、ご自身を与えたことを行為と言葉で宣言するために、
- d. キリストの名によって、命の豊かさを今よりのち永遠に提供するために、
- e. あらゆる場所にいる人々にイエス・キリストを主であり救い主であると信じ、従うことを求めるために、

W-7.2001: II コリ 5. 19-20 ; ウェストミンスター信仰告白 6. 055-6. 058, 6. 187-6. 190

- f. これらの人々を信仰共同体に招き、三一の神を礼拝し、仕えるために。(G-1.0200; G-3.0300)

W-7.2002 福音伝道の文脈 人々がいつも福音の告知を聞き、神の約束を贈られ、信仰と献身の行為で応答する機会を与えられ、共同体からの育成と支持を受けることは礼拝の基本的な文脈に含まれる。(W-2.2000; W-2.5001; W-3.3501-.3503; W-3.5500) 教会生活において、聖霊の再生する力は、相互の愛と奉仕、自己犠牲と、分離されている人たちを受容し、イエス・キリストへの信仰を分かち合う共同体に引き寄せる事のなかに明らかに示されている。キリスト者が世界の中で日々信仰に生きるときに、知り合いになった人たちを招き、神の民の生活を共にし、彼等の礼拝に加える。

W-7.3000 3. 憐れみ

W-7.3001 憐れみのミニ ストリー 神は聖霊の力により教会が以下のような憐れみを実践するために世界に送り出す。

- a. 飢えた人たちに食事を供給する、
- b. 悲しんでいる人たちを慰める、
- c. 病人の世話をする、
- d. 在鑑人を訪問する、
- e. 監禁されている人々を解放する、
- f. 家のない人々を保護する、
- g. 孤独な人の友になる。

W-7.3002 憐れみと礼拝 神の憐れみへの招きは礼拝で告知される。この務めに召された人たちは御言葉の説教と聖礼典の執行によって憐れみのミニストリーのために備えられ、強められる。この召しは、告白と執り成しの祈り、自己犠牲の行為、そして、憐れみのミニストリーのために捧げられる有形物資によって、忠実な応答として受け入れられる。(W-2.1002; W-2.5000; W-3.3505-.3507) 召されたものはその務めに遣わされ、キリストに代わって教会から憐れみの行為を行うために送られる。(W-2.6000; W-3.3701; W-4.3000)

W-7.3001: マタイ 25 : 31-46 ; ルカ 4 : 18-21 ; ロマ 12 : 6-8 ; ガラ 6 : 9-10 ;
ヤコブ 1 : 27, 2 : 14-17

W-7.3003 憐れみと支援
このような憐れみの行為は、共同や、個人で行われるにしろ、キリストの体としての教会がなす仕事である。教会は人々の即時的な必要や痛み
の世話をするために召されている。教会はまた、建設的なことをするため、あるいは、壊れと歪みを正す組織や機構に携わる事に召されている。キリスト者は支援と憐れみの行為を通して、教会の共通のミニストリーに奉仕
をすること、そして、これらの目的のためにたてられている機関や組織に協力することにより応答する。(G-3. 30300)

W-7.3004 忠実な憐れみ
イエス・キリストの例にならい、現代の忠実な弟子たちは次のような憐れみを表明する。

- a. 必要としている人たちの尊厳を重んじる、
- b. 不相当な裁きを受けた人たちを助ける際にも広い心を持つ、
- c. 自分自身の安楽と安全が危険にさらされても積極的に処する、
- d. 与えると同じように受け入れる備えをする、
- e. 奉仕をするさなかでも祈り続け、礼拝する共同体の再生する力と絶えず交わりを持つ。(W-G-3. 0400)

W-7.4000 4. 和解：正義と平和

W-7.4001 における和解
神は、教会を聖霊の力の下に送り出す。そして、教会はキリストと共に、神の公平と、平和と、慈愛に満ちた規則を世界の中に確立する。
(G-3. 03000) 神のイエス・キリストにおける和解は正義と平和の基礎である。(1967 年信仰告白 9. 45) 礼拝において教会はイエス・キリストにおける和解を宣言し、受け入れ、演ずる。そして教会は自己の生活と世界の中で、正義と平和のために努力すると約束する。

W-7.4002 正義を行うこと
正義は神が人間の生活のなかに定める秩序で、自分で権利を主張する力のない人たちの権利を公正に誠実に取り扱い、それを与えるためのもの

W-7.3004: マルコ 1 : 32-38 ; ルカ 6 : 12

W-7.4000: 1967 年信仰告白 9.43-9.47

W-7.4002: 出エジプト 22 : 21-27 ; レビ 19 : 33, 34 ; 詩編 34, 82 ; イザヤ 2 : 1-5 ; 32 : 1-8, 16, 17 ; アモス 5 : 6-15 ; ミカ 6 : 8 ; マタイ 23 : 23-24 ; ルカ 4 : 16-21 ;

ウェストミンスター信仰告白 6. 127-6. 128 ; 大教理 7. 246, 7. 251, 7. 254, 7. 255 ; 1967 年信仰告白 9. 43-9. 47

である。正義を行うことの聖書の見解は以下の事柄を求める。

- a. 個人と公の業務において誠実に取り扱うこと、
- b. 共通の善のために力を発揮する、
- c. 尊厳と自由を求め、拒まれたことを尊重する人たちを支援する、
- d. 公正な法のために努力し、法の正しい執行に努める、
- e. その地に不慣れな人をもてなす、
- f. 富めるものと貧しいものとの間の格差を克服することを求める、
- g. 政治的な圧迫と搾取に対して証しをすること、
- h. 個人、グループ、そして教会の人々、民族、さらに世界に反抗する悪を正す。

W-7.4003 正義のないところには平和はない。破壊と暴力と不正のあるところほど平和をもたらず

- a. 歴史と文化によって断片化され分離した公同の教会や、相互の不信で内部的に分極化した教派のなか、そして、意見の相違と争いで悩まされている地域教会の中で、
- b. 世界のなかで、他のどの国よりも国家安全を優位に置こうとする国家において、宗教、民族、もしくはイデオロギーの熱狂が暴力的に爆発するところ、そして、経済的、政治的権力を獲得し、それを保持しようとする欲望が暴動や戦争を突発させるところ、
- c. 犯罪と恐怖に悩む共同体の中で、悪意のある競争と秩序に対する反抗で注目される学校や職場で、そして暴力による恐れや、恐怖による麻痺で、自らが分裂した家族や家庭において。

W-7.4004 和解と正義と平和のミニストリーは教会の神礼拝において始められ育成される。神の御言葉の宣教は、これらのミニストリーを果たさせまいとする犯罪行為と恐怖からの自由を人々に保障する。洗礼と主の晩餐において、信徒はキリストと一体になり、聖霊を通して教会の中で一つにされる。そして、信仰における兄弟姉妹として、あらゆる隔てや分裂を乗り越えて互いに認めあう。(W-2. 3000-. 4000) 祈りにおいて、信仰者は破壊と暴力と不正義を経験するすべての人のために執り成しの声を高め、イエス・キリストにお

W-7.4003: イザヤ 2 : 1-5 ; 32 : 16, 17 ; ミカ 6 : 8 ; ヤコブ 3 : 13-18 ; ウェストミンスター
信仰告白 6.128 ; 大教理 7 : 245, 7.246 ; 1967 年信仰告白 9.43-9.47, 9.53-9.56

ける和解と平和と正義を神に感謝する。そして自らが正義を求め平和を得ようとする和解者となることに専心する。(W-2. 1000; W-2. 6000; W-3. 3506; W-3. 3700)

W-7.5000 5. 創造と命の保護

W-7.5001 神は教会を聖霊の力の下で、神の創造と保持の業に参加するように召される。神は人類に荘厳な力と非常に危険な責任を与えて地球を統治し、利用できるようにし、それを維持し、作り直させる。さらにそれを再び穢にし、再生させる。

W-7.5002 礼拝においてキリスト者は神を喜び、創造された宇宙と地球と命とすべての物を与え支えて下さる神に感謝を捧げる。彼等は神の命令は管理人になることを承知している。彼等は自身が創造と命を保存することに失敗していることを告白する。彼等は御言葉のうちに告知され、聖礼典に印章されている約束—イエス・キリストにおける創造の贖いと再生の約束—を喜ぶ。彼等は、神がすべてを新しくする日まで、神の管理人として生きることを約束する。(W-1. 0000)

W-7.5003 地球を管理する神の創造の管理人として、神の民は以下のことに召されている。

- a. 地球の資源を荒らすことなく、汚染することなく破壊することなく、責任を持って利用すること、
- b. 技術的方法と地球環境の保持と関連して命を高める仕組みとを発展させる、
- c. すべての人々に適用できる方法で命にとって十分な物を生産し消費する、
- d. 実際に子、(あるいは) 新種を作ったり、繁殖したりすることの責任のある心構えと実践に務める、
- e. すべての被造物に対する神の愛を反映させる美と秩序と健康と平和を作り出す方法で地球上の物を用いたり形づくったりすること。

W-7.5001: 創世記 1 : 26-28 ; 2 : 15-20 ; 詩編 8

創造の賜物にたいする感謝の意を表して、信仰者は、礼拝で、賞賛を表す手段とし、自己奉獻のしるしとし、地球の産物に関わる記念とし、物質的物品を神のもとに携える。(W-2.5000; W-3.3507; W-5.5005-5006; W-5.6000)

W-7.6000 6. 教会と神の支配

W-7.6001 礼拝とミニストリーにおいて教会は神の支配の徴であり、その支配は現
教会と神の 存の現実でもあり将来の約束でもある。教会の礼拝と礼拝式は神の国の到来
国 をもたらさない。神の支配に敵対する時代には、教会は神の支配はすでに確
立しているとの確信と、神の勝利は究極的に明示されるとの堅い希望を持つ
て神を礼拝し、奉仕する。

W-7.6002 現在の時代では、福音伝道と創造の保護、憐れみと和解に関する教会の
確信と希望 諸ミニストリーは神の支配の徴であり、命を否定している現状のさなかにお
いては希望を示している。その希望は教会のミニストリーの成功とか礼拝の
有効性によるのではなく、教会が仕え、礼拝をするときに教会と共にいます
神の力によって支えられている。

W-7.7000 7. 礼拝と賞賛

W-7.7001 礼拝において教会は再形成され、更新され、備えられ、世界における神
神に栄光を帰 の支配に仕えるために送り出される。教会はその日を待ち望む。
する言葉

天上のもの、地上のもの、地下のものなど、
あらゆるものが、ひざをかがめ、
また、あらゆる舌が
「イエス・キリストは主である」
と告白して、
栄光を父なる神に帰するためである。
(ピリピ人への手紙 2 : 9-11)

わたしたちを罪に陥らないように守り、
また、喜びにあふれて非のうちどころのない者として、
栄光に輝く御前に立たせることができる方、
わたしたちの主である唯一の神に、
わたしたちの主イエス・キリストを通して、

栄光、威厳、力、権威が永遠の昔から、今も、
永遠にいつまでもありますように！

(ユダの手紙：24)

アーメン！

賛美、栄光、知恵、感謝、
誉れ、力、威力が、
世々限りなく
わたしたちの神にありますように、

アーメン。

(ヨハネの黙示録 7：12)